

会派視察研修計画書

令和5年6月19日

碧南市議会議長 様

会派名 慧政クラブ
 代表者名 林田 要

下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	林田 要、藤浦伸介	
日時	令和5年7月19日（水）～令和5年7月21日（金）	
視察先	北海道夕張郡由仁町、北海道石狩郡当別町、 (株) ファイターズスポーツ&エンターテイメント	
研修内容	由仁町「スマート農業について」 当別町「義務教育学校『とうべつ学園』について」「ロイズタウン駅について」 (株) ファイターズスポーツ&エンターテイメント「ボールパークがもたらす効果について」	
日程	1日目 碧南中央駅～電車にて中部国際空港～飛行機にて新千歳空港～電車にて由仁町（研修）～電車にて札幌市近郊（宿泊） ※由仁町、当別町共に宿泊施設の確保不可 2日目 電車にて当別町（研修）～電車にて北広島市（宿泊） 3日目 徒歩またはタクシーにてボールパーク～電車にて新千歳空港～飛行機にて中部国際空港～電車にて碧南中央駅	
交通手段	公共交通機関利用 乗降車駅名（碧南中央、中部国際空港、新千歳空港、由仁、札幌、当別、北広島）	自家用車利用 _____ 台 所有者名（ _____ ）

(議会事務局記入)

旅費の額	(内 訳)
円	

様式14

会派視察研修報告書

令和5年8月17日

碧南市議会議長 様

会派名 慧政クラブ

代表者名 林田 要

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2人分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	林田 要、藤浦伸介
日時	令和5年7月19日（水）～ 令和5年7月21日（金）
視察先	北海道夕張郡由仁町（及び（株）チュプチニカ） 北海道石狩郡当別町 （株）ファイターズスポーツ&エンターテイメント
研修内容	由仁町「スマート農業について」 当別町「義務教育学校『とうべつ学園』について」「ロイズタウン駅について」 （株）ファイターズスポーツ&エンターテイメント「ボールパークがもたらす効果について」
視察先面会者 又は講師名等	由仁町産業振興課長 関澤和之氏 （株）チュプチニカ 中川善教氏 当別町事業推進課長 高田浩司氏、学校教育課主任 高橋侑己氏 （株）ファイターズスポーツ&エンターテイメント 大西真帆氏
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

様式 15

視察研修成果報告書

令和 5年 8月 17日

議員氏名

林田 要

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期・間 令和5年7月19日（水）～令和5年7月21日（金）
- 2 視察先
 - 1 北海道夕張郡由仁町
 - 2 北海道石狩郡当別町
 - 3 (株)ファイターズ スポーツ&エンターテインメント（北海道北広島市）
- 3 視察の種類 会派視察研修
- 4 視察の成果等 別紙のとおり

1 北海道夕張郡由仁町

「スマート農業について」

事業の背景としては就農人口の現象、従事者の高齢化の進行、後継者不足といった生産基盤の弱体化が挙げられる。そこで由仁町として、主要産業の農業経営における維持と継続的な発展のため、先述の課題解消を図ることを目的として、ドローンをはじめとする先端技術を活用したスマート農業を導入することで、省力化、生産性の向上、品質の高い生産を目論んだという。

事業期間を令和2年6月から令和4年2月として、先ずドローンを用いた農業散布の安全性の確保から始め、その後、ドローンセンシングによる効率化、生産性の安定について検証された。調査研究の主体は、由仁町産業振興課に加え、町内農業従事者、農業関係機関、その他関係機械業者も含まれている。それらで由仁町スマート農業加速化調査研究会を組織して実施した。つまり、役場単独、もしくは役場と一部の関係者に留まらず、先を見据えたスモールスタートな事業でもあり、関係団体を多く含む組織を主体とすることで、抜け、漏れの無い事業実施を目指していることがわかる。この辺りの事業の進め方は碧南市としても今後の事業内容によっては、よく見る名前が羅列される組織づくりではなく、実践的な目的達成のための主体、組織による事業推進を図るべきであり、議員としてはその点を注視したい。

実際の事業推移、事業結果について、現地において資料を元に説明をいただいたが、いずれも初めて見るデータや資料画像ということもあり、先端技術のもつ可能性を感じざるを得なかった。従事者不足を解消し、かつ効率化に寄与するドローン、およびソフトウェアの開発も同時並行して行われ、随時アップデートしつつ、過不足なく実証実験が完了したことがわかった。特に驚いたのが、大規模農場における作物の品質について、農地をPCモニタ上で色分けしながら判別し、肥料散布の適量、適地を一瞥しただけでわかる技術は、使用方法も難しくなさそうで、高齢者の農業従事者でも使用できそうな点は食料自給率の低下が著しい我が国全土に広めて欲しいものであった。何より、ドローン使用時の安全性を第一に考えつつ、ヒヤリハットのような事例集を作成している点は、安心して従事する上でもしっかりサポートされていることが好意的であった。

これらの他、現在では複数地域間における機器のシェアによる労働費削減、農家収益化向上プロジェクトを実施されており、単位面積当たりの収穫量の向上などで農家収益の20%上昇を目下の目標として進められている。これらの機器には、防除・スポット散布UAV、自動アシストコンバイン、センシングUAVのシェアリングが含まれており、個別の農家ではなく、地域全体、複数地域間での機器シェアリングによる収益向上ということで、膨大な土地をもつ北海道において成功すれば、規模のより小さな碧南市においても当然、成功するものであろうと考える。

2 北海道石狩郡当別町

「義務教育学校とうべつ学園について」

碧南市においても、市内小中学校の児童、および生徒数の減少が年々進行している点を鑑み、部活動の学校間格差や校舎の維持管理コストのあり方が課題の一つとなっている。全国的に地域間の格差や、統廃合による保護者や通学する児童生徒の負担も話題となる中、当地当別町では学力向上を目的とした小中一貫校であるとうべつ学園を設立し運営されている。直ちに碧南市の市内小中学校に導入することを企図するものではないが、今後必ず訪れるであろう統廃合の議論において有効となるものと思ひ、担当者から説明をいただいた。

文科省の統計では全国に小中一貫校は745校あるらしく、事例の少ないものではない。いずれも統廃合により設置されたもの、新設されたもの、公立、私立様々であるが、おおむね共通している点は1年生から9年生と学年を設けており、同一校舎、敷地において児童、生徒たちが通学し、9学年全体行事などが開催されていることが挙げられる。当日は授業もあり、現地を視察することはかなわかったが、きめ細かな説明と、質疑応答にも快く応じていただいたおかげでイメージがわきやすかった。つまり、従来の小学校6年間+中学校3年間を経験した私のような多くの者においては、9つの学年が同時に同じ場所に存在することが想像しにくく、この点が事業策定に伴う最初のハードルであるよう。そういった点からも、機会があれば当別町以外の小中一貫校の授業風景、催事風景も拝見したいと感じた。

供用開始にあたって大きな障壁は無かったと語られたが、碧南市において必要性を考察するにあたり、まずもって市内小中学校の現況、将来予想を加味して比較検討すると、先述のとおり児童、生徒数の差が広がりつつある点と、児童、生徒数に比例して差配される教諭数の差異による部活動の選択肢の多少が生じている。比較的、碧南市内の小中学校は川口町など一部を除き、いずれも徒歩圏内で通学できている。つまり課題とすべき点は学校間のクラス数の多少による経験の格差ではあるが、この点は教育委員会をはじめ各種関連団体の鋭意努力により解消を図られている。とうべつ学園のように学力向上を第一目標に掲げるほどの差異も大きく存在はしない。ただ一点、外国人児童、生徒の増加が著しいという当別町担当者の話を聞くにあたり、碧南市と共通の課題と言える。

碧南市においても外国人児童、生徒への対応は翻訳機器の配布など市独自施策をもつなど苦慮している点があり、現場の教諭の尽力により大きな問題の発生までは至っていないが、このままのペースで進むと予断を許さない。小中一貫校の事例と関連するか否かも含め、今後の碧南市における教育関連課題解決の一助になればと思ひ、引き続き学校形態の変容については注視すると共に研究を継続していきたい。

「ロイズタウン駅について」

その後、全国的にも事例の少ない、JR新駅設置、および駅前周辺開発を加えてロイズタウン駅事業について研修を受けた。当別町は人口15,000人余の決して大きな都市では無いが、なぜJRが新たな在来線発着駅を設けたのか、その経緯は碧南市における私鉄4駅の今後の見通しと合わせ興味をもたせるに十分であった。当別町は「新しいまちの顔づくりプロジェクト」として、先ず人口20,000人達成という目標を掲げた。これは第6次総合計画における「住みよいまちづくり」、「活力あるまちづくり」において、道路・公共交通の充実と観光業の振興と交流人口の拡大という題目に関わっている。また、いずれも公民連携による新駅の検討をうたっている。加えて、まち・ひと・しごと創生総合戦略、立地適正化計画においても同様の文言がうたわれており、まさに当町あげてのプロジェクトであることがうかがい知れる。

しかし、プロジェクト推進にあたり、町単独での事業実施は多額の財政投資を要するため民間事業者との連携が必要不可欠であるわけだが、当初より公民連携を前提としてスタートしている点が注目される。当地には当別町出身のオーナーが経営するロイズ社があり、当社の協力体制も前向きであったように、新駅設置が目的ではなく、あくまで人口20,000人達成に向けた取り組みとしての将来像、ビジョンの共有が見て取れる。既存の太美駅を中心とした市街地地区、田園地区の風景、新設の道の駅、そしてロイズ社工場を含む新駅周辺をアミューズメント性を持たせる、といったコンセプトが明確にされた。これらから魅力発信、観光から定住といった流れを目論んでいる。

現在の碧南市に置き換えてみると、新駅設置の猶予は無いが、既存4駅について、明確なビジョンをもった土地活用がされているかという小さな疑問符が付く。都市再生整備計画があるが、当別町のビジョンとイコールにはならないが、それぞれ4駅の土地環境と周辺施設、近隣住民の理解といった精査と持続可能な発展のためのマネタイズできるかという視点も必要であると思われる。

具体的なロイズタウン駅の特徴を説明されたが、その中で印象に残ったのは「スマートタウンの実現」といったテーマであった。無人走行バスの運行が目を引くが、由仁町で学んだスマート農業を取り入れたICT栽培をはじめとする農家の6次産業化が碧南市に近しいと感じた。由仁町のある空知地区の次に当町のある石狩管区においてもスマート農業の推進は図られている最中であり、特にロイズタウン駅周辺の広大な農地においても、観光資源としての田園風景にスマート農業活用による農家レストランの推進など、既存のリソースを活用した観光新名所の創出に取り組んでいる。無人走行バスにおいては、駅前エリアからロイズ工場までの定期運行を実施、検証するなどの施策が進められていた。実際に令和5年6月30日から7月17日までの20日間、実証実験を実施した結果、9,500人に及ぶ観光客

が搭乗したとの成果報告がされた。また駅前広場の活用実験として、クラシックカーの展示会を実施するなど、道内外からの観光客が選択肢の一つに含まれるように実践的に活用を試みている。論より証拠とは言うが、実現された新駅設置で終了ではなく、あくまで手段の一つとして、目標達成に向けた官民連携の良い事例であると思い、碧南市にも適用できないか考えるものである。

3 (株)ファイターズ スポーツ&エンターテインメント (北海道北広島市)

「ボールパークがもたらす効果について」

碧南市には臨海球場をはじめ、羽久手、水源公園など軟式野球環境が充実しているが、いずれも野球単独使用が前提となっており、周辺環境へ及ぼす正の効果などは無いと言える。もちろん供用開始時の時代背景から考察するに、野球人口増加に対応すべく事業化されたものは容易に想像できるわけであるが、現代においては公共施設の利活用は単独利用といった贅沢なものは多く無い。今回の研修で学ばせていただいた北広島市のボールパークは、日本ハムファイターズという一流スポーツチームが持つブランド力に一辺倒にならず、地域一帯をマネタイズ可能な「ボールパーク」と見立てたライフ+アミューズメントと言っても過言では無い、今後の公共施設整備における大きなヒントとなるものであった。

昨年、総務文教委員会の行政視察研修にて、供用開始前の現地を北広島市役所担当者の同行を得て研修いただいたものである。その際には、事業構想の経緯から実施、予算関係の議会对応、周辺自治体との折衝も含めたお話をいただいた。肝となるエスコンフィールド自体も工事中ということで敷地外から眺めることしかできず、壮大な計画の経緯を学びたい気持ちを抱き帰路に着いた。

今回は、実際に供用開始から4ヶ月を経た状況を、エスコンフィールド内において学ばせていただくことができ、事前説明で受けた研修内容が立体的に頭の中で展開されていくことがわかった。まずメインとなる球場内部は、従来の野球球場といった佇まいを感じることはなく、むしろショッピングモール、フードコートの中に球場がある、といったイメージに近いと感じた。もちろんフィールドもあり、スタンドもあるのだが、それらを取り囲むように設置された戦術のフードコートエリア、スタンド以外の観戦エリアが著しく広く設けられており、いわゆる野球観戦の概念を覆すものであると言える。つまり、そこに行くことが楽しくなる施設であり、野球観戦しなくても例えば家族で入場するだけでも食事をしながら雰囲気を楽しむこともできる環境が整備されていた。(入場料は大人別途必要)

研修項目として当該球場施設を中心としたボールパークがもたらす効果を挙げたが、結論から言えば現時点においては未確定であると言わざるを得ない。むしろ昨年の研修で説明された目標を大きく上回る予想であり、北広島市を中心とした近隣自治体にまで予想された経済効果を上方修正しなければならないだろう。供用開始から4ヶ月の現時点で、すでに北広島市自体の路線価の高騰もあり、新駅の供用開始となれば札幌通勤圏内ということからも、分譲マンションの完売続きが見られているとのことであった。またホームチームの成績不振が続いているにも関わらず、現在の好調な客足と周辺施設の賑わい状況から、チームの成績が上向きに振れた際の周辺環境への影響は計り知れないことが容易に想像できる。

碧南市における公共施設のあり方に振り返ってみると、単独の目的に特化した施設の統廃合に限らず、ボールパークの本質である「適切なマネタイズが的確な公平性をもたらす」ことを念頭においた事業構想の必要性を強く感じたもの

である。つまり誰にでも平等に提供されることが目的であった従来型の公共施設のあり方から、例えば民間活力の導入による適切なマネタイズによる本来の必要とされる施設のあり方への変化を研究する必要性と言い換え得る。決して金持ち優遇ではなく、電車のダイナミックプライシングのように需給バランスに応じた利用料金や提供サービスの変化の導入について前向きに取り入れていくことで、施設周辺環境も含めた持続可能な新しい自治体像の具現化を図りたいと考えるものである。

視察研修成果報告書

令和5年7月28日

議員氏名 藤浦伸介

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

記

- 1 期間 令和5年7月19日（水）～令和5年7月21日（金）
- 2 視察先 (1) 北海道夕張郡由仁町
(2) 北海道石狩郡当別町
(3) (株) ファイターズスポーツ&エンターテイメント
(北海道北広島市)

- 3 視察の種類 慧政クラブ 会派視察研修

4 視察の成果等

- (1) 7月19日（水）14:00～16:15 北海道夕張郡由仁町「スマート農業について」

由仁町において、農家の戸数及び農業就業人口は年々減少し、農業従事者の高齢化が進行、更には後継者不足が深刻化している。こうした状況下において、農業経営を継続的に維持・発展させていくためには、ドローン等の先端技術を活用した「スマート農業」の現実的な実践導入により、省力化や生産性の向上、高品質の農産物を図っていくことが必要、ということで令和2～3年度に公益財団法人の補助を得て「由仁町スマート農業加速化実証事業」を実施した。

導入効果の検証として、農薬散布作業については、ドローン導入前後で作業時間と人件費が共に50%以上削減された。驚くべき効果である。また、これに基づき、標準マニュアルを作成。この他、ドローンを用いたモニタリングを実施したり、令和4

～5年度には近隣市町と共同で、複数地域間における機器シェアリング、農家収益向上プロジェクトを実施するなど、国の補助金を活用し、精力的に取り組んでいる。

また、このドローン機器を供用しているのが、由仁町内にある株式会社チュプチニカで、碧南市の日進工業株式会社が100%出資している企業である。こちらの企業も視察させていただいたが、最先端の機器を取り扱うのみではなく、小中学生向けにドローンのプログラミング教室を開催するなど、地域に根差した活動をしている。

町の取り組みも企業の取り組みも、それぞれ素晴らしいものであった。

(2) 7月20日(木) 13:00～14:45 北海道石狩郡当別町

ア 「ロイズタウン駅について」

現在の人口は1万5千人余だが、人口2万人を目指す新たなまちづくり施策の展開として、民間事業者活力の活用・コラボレーションにより、新駅を設置する構想が生まれた。生チョコで有名なロイズタウン工場が町内にあり、このロイズチョコのおかげで、ふるさと納税が年間20億円以上入っている。

新たな観光周遊エリアの創出、地域性を活かす土地利用の促進、IoT/ICTの活用により、町の魅力を発信し、観光から定住へ促す目的。駅はロイズ社が、広場は町が整備した。

駅は無人駅だが、周囲一帯を整備したことで、イベントが行いやすい環境となっている。

イ 「義務教育学校とうべつ学園について」

「中高一貫校」はよく耳にするが、当別町では「小中一貫校」を昨年4月に開校した。9年間の切れ目ない教育により、徹底した基礎学力の定着、自らの夢や目標を自らの手で切り拓いていける力、世界で活躍するためのツールとしての英語力、部活動等による強い心と体など、世界に通用する人となるための確固たる基礎を作るという教育理念。

視察当日は授業があったため、施設を見学することはできなかったが、校舎や体育館の造りやレイアウトが非常にユニークで、1年生から9年生(中学3年生)までの児童・生徒が効率的に学べる環境となっていると感じた。

町内にはこの学校がある「当別地区」の他、「西当別地区」があり、そちらには小学校が1校、中学校が1校あるが、西当別地区も小中一貫教育を行っている。

取り組み自体が大変ユニークで、道教委の人事異動の際には、こちらへの異動を希

望する教員も多いとのこと。

- (3) 7月21日(金) 10:00~11:00 (株) ファイターズスポーツ&エンターテイメント
「ボールパークがもたらす効果について」

今年3月に開業したエスコンフィールドHOKKAIDOと周辺エリアを含めた北海道ボールパークFビレッジ。このうち、エスコンフィールド内のスタジアムを見学させていただいた。

この日は試合の無い日だったが、それでも大勢の人が詰めかけている。「新規の施設」ということや、メディアによるCM効果もあるかと思うが、球場内にある飲食店やグッズショップは普通に営業しており、ゲームの有無に関わらず、誰でも来場することが可能。野球ファンのみならず、子供から大人まで楽しめる施設となっている。

プロ野球の日本ハムファイターズが、ホームスタジアムであった札幌ドームからこちらに移転することになり、今シーズンから運用が始まったわけだが、滑り出しは上々で、大いに賑わいを見せている。くしくも、訪れたこの日に、「札幌ドームの利用率が見込みを大幅に下回っており、試算した札幌市の対応が問われる」という内容のニュースが流れていた。

ハードとソフトの調和が取れており、今後益々賑わっていくのでは、と感じた。